**不思議なタラントン 2017 11 19**

**マタイ 25:14-30 Pr. H. Adachi**

主の恵みと平安が会衆の心に染み渡りますように！

マックスウェバーという人の名前をきいたことがあるだろうか？19世紀の社会学者で「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の原理」という論文を発表した。私はいっとき興味を持ち、マックスウェバーやマックスウェバーに関連した本を借りて何冊も読んだ。

簡単に言うならキリスト教プロテスタントは決して金欲、金儲けをすることを悪いことだとはしていない。そして資本主義の発展にはプロテスタンティズムが寄与したという側面が、当時の産業革命などとの兼ね合いも含めていろいろな角度から検証されていた。

確かに、今日与えられた聖書箇所などを読んでみていかがだろうか。ちなみにタラントンという聞きなれない言葉が出ているが、当時の最大通貨単位で１タラントンは6000デナリともいわれ、一デナリが一日の労働賃金だったとされるので、6000日分の賃金という話になる。

だとすると、一タラントンとは現代の価値でいう一億円単位ものお金。だから５タラントが５億円、２タラントは２億円、１タラントは１億円といも言えるのかと思う。さてそのようなタラントンの解釈に基づいて、与えられた聖書箇所を文字通りに解釈するなら次のような解釈ができてしまうように思う。

神さまは一人一人の人間の能力に応じて資本金を与えてくださる。そして人間は精一杯与えられた資本金を利用して金儲けをして、儲かったお金はそのまま神さまにお返しする。そんな解釈ができるのかもしれない。ビジネスを営む敬虔なクリスチャンはわくわくするような聖書箇所かもしれない。

このような解釈をして、神様は資本主義社会は神の御心であり、どんどん金儲けをすればよい。いただいたお金は全部神様にささげても、そのお金はごほうびにくださり、儲けることができなかった人の分まで、儲けた人にくれるのだから金持ちはどんどん金持ちになれば良い、それが神様の御心なのだとも考える人が出てもおかしくないのだ。

しかし、このような解釈は本当に神様の御心なのだろうか。１６世紀以降、キリスト教会はプロテスタント教会がひろまるようになり、西ヨーロッパではドイツ語や英語に訳され、だれでも聖書の御言葉を読める社会へと代わっていき、私が今話したような解釈に基づき、資本主義社会を良しとした動きがあったことは否めないのかもしれない。

しかし、聖書は正教会やローマカトリック教会においてリーダたちによって読まれていて、16世紀以前も読まれており、資本主義的な考えが出てきたとはいいがたい。なぜ教会のリーダたちはそういう考えにはならなかったのだろうか。

私はイエスが使われたタラントンの言葉には通貨で考えてしまうより、もっと深い意味があるのではないだろうかと考えた。もっとも現在の言葉でタレントというと、賜物とか能力という言葉の意味もあるのだが。　なにか当時の状況から考えて、イエスがおっしゃりたかったことに思いを巡らすため、マタイが使ったギリシャ語のタラントンの意味を探った。

ある資料によるとタラントンは質量の単位であり、当時イスラエルでは200パウンドの金という意味で使われていたという。　お金にしても金にしても、５タラントであろうが１タラントであろうが、たいへんな価値の話をイエスは話しておられる。

聖書から学べる一番価値があるものとはなんだろう。イエスが一番大切な律法は神を愛し隣人を愛すること。　そして、イエスが十字架の死と復活を通して、私たちの身代わりになってくださったこと、最高の知らせは、神が私たちをどれだけ愛していてくださっているかだ。

もっとも価値のあることとは、聖書全体を通してわかる、神が私たち人間をいろいろな形で愛してくださっているということだ。そして、わたしたちは聖書を読むなかで、今日２１世紀を生きる私たちも、神が値段のつけようのない高価な愛をくださっていることこともっとも価値のあることといえる。

すると今日のたとえ話のタラントンとは神がわたしたちにくださっている高価な愛という解釈ができるのではないだろうか。本来、プロテスタントが生まれる前から理解されてきたこのストーリは、タラントンとは狭義に解釈して即資本金という意味ではなく、とても大きな神の愛いつくしみ、恵みだったと思えてしょうがない。

ちなみに、マルチンルターも、プロテスタントの牧師としては、資本主義に賛成するような考え方だったのだろうか？　私が神学校で学んで感じることはマルチンルターはむしろ逆だったように考える。逆というのは、資本主義の反対だから共産主義という考え方だったというわけではない。もっとも資本主義とか共産主義という言葉がルターの時代には使われていたとは思えず、明確ではないのだが。

大切なことは、神からの恵みをいただいていること、それが最優先にある。　神からの恵みゆえに、その恵みに応答する生き方をすることが、彼のプロテストの心情だったように感じる。そしてルター派教会キリスト者たちは、世界最高の神の愛にあふれる社会福祉システム構築に仕えていったように思う。

私たち人間は今日のタラントンにたとえられた、つまり聖書全体につらぬかれている神様からの驚くばかりの恵みを受けている。そしてその恵み・愛を身にまとって、思いっきり人々と分かち合い、神の愛で満ち溢れる社会にするようにという使命を今日新たに受けた。